

新型コロナウイルス感染症拡大対策 に関する緊急アンケート

報告書

令和2年5月19日

みえ市民活動ボランティアセンター

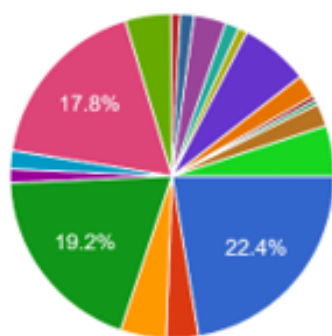
(三重県・特定非営利活動法人みえ NPO ネットワークセンター)

【調査概要】

目 的	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行うことにより、多くの NPO・市民活動団体が影響を受けている。その影響の実態把握を行い、適切な支援や対応の検討を行うことを目的に、県内中間支援組織と連携して実態調査を行った。
期 間	2020 年 4 月 16 日～4 月 30 日（2 週間）
方 法	WEB によるアンケート
送付数	691 件（三重県内 NPO・市民活動団体 等）
回答数	219 件（三重県内 NPO・市民活動団体 等）
回収率	31.7%
実施主体	みえ市民活動ボランティアセンター （三重県・特定非営利活動法人みえ NPO ネットワークセンター）
協 力	三重県内中間支援組織・市民活動センター

【回答者の属性】

<活動分野>



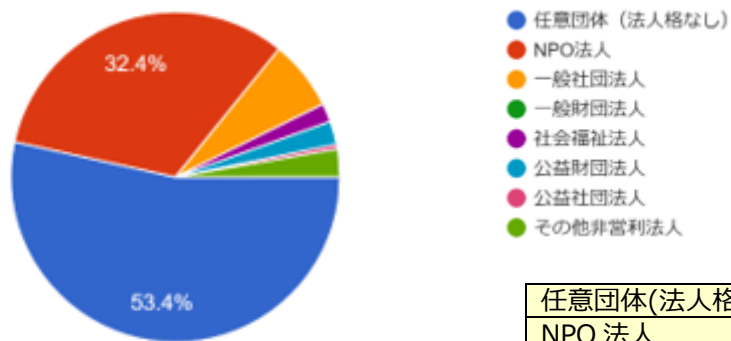
- 福祉（高齢・障害）
- 保健・医療
- 社会教育
- 地域・まちづくり
- 観光の振興
- 農山漁村・中山間地域の活性化
- 文化・芸術・スポーツの振興
- 環境保全

福祉（高齢・障害）	49 団体	22.4%
地域・まちづくり	42 団体	19.2%
文化・芸術・スポーツの振興	39 団体	17.8%
子ども・若者	15 団体	6.8%
その他	11 団体	5.0%
環境保全	10 団体	4.6%
社会教育	10 団体	4.6%
保険・医療	7 団体	3.2%
人権・平和	7 団体	3.2%
※回答少数団体	29 団体	13.2%
	219 団体	100%

※回答少数団体（29 団体）の分野

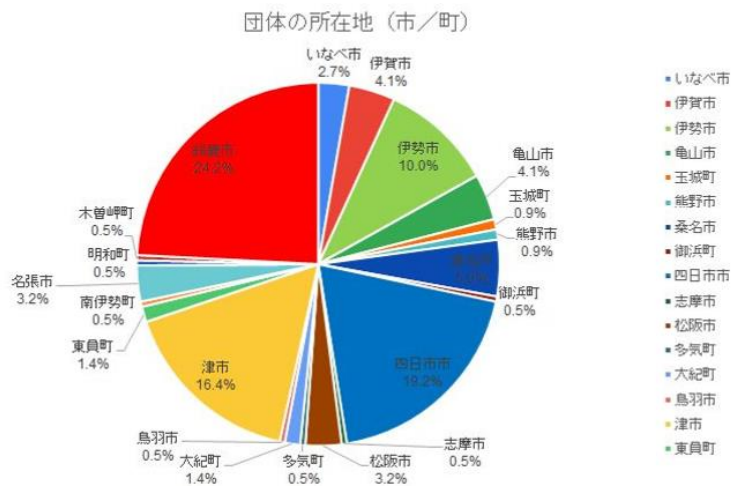
- ・多文化共生・外国人支援（5 団体/2.2%）
- ・団体運営支援・活動連絡・助言（5 団体/2.2%）
- ・農山漁村・中山間地域の活性化（4 団体/1.8%）
- ・観光の振興（3 団体/1.3%）
- ・国際協力（3 団体/1.3%）
- ・地域安全（3 団体/1.3%）
- ・災害救援（2 団体/0.9%）
- ・男女共同参画（2 団体/0.9%）
- ・経済活動の活性化（1 団体/0.4%）
- ・情報化社会（1 団体/0.4%）

<法人格>



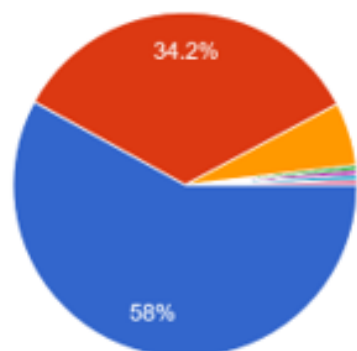
任意団体(法人格なし)	117 団体	53.4%
NPO 法人	71 団体	32.4%
一般社団法人	15 団体	6.8%
その他非営利法人	6 団体	2.7%
公益財団法人	5 団体	2.3%
社会福祉法人	4 団体	1.8%
公益社団法人	1 団体	0.5%
	219 団体	99.9%

<団体の所在地>



鈴鹿市	53 団体	24.2%	東員町	3 団体	1.4%
四日市市	42 団体	19.2%	玉城町	2 団体	0.9%
津市	36 団体	16.4%	熊野市	2 団体	0.9%
伊勢市	22 団体	10.0%	御浜町	1 団体	0.5%
桑名市	11 団体	5.0%	志摩市	1 団体	0.5%
伊賀市	9 団体	4.1%	多気町	1 団体	0.5%
亀山市	9 団体	4.1%	鳥羽市	1 団体	0.5%
松阪市	7 団体	3.2%	南伊勢町	1 団体	0.5%
名張市	7 団体	3.2%	明和町	1 団体	0.5%
いなべ市	6 団体	2.7%	木曽岬町	1 団体	0.5%
大紀町	3 団体	1.4%	21 市町	219 団体	100.2%

1. 団体への影響



● かなり影響を受けている
● 少し影響を受けている
● 全く影響を受けていない

かなり影響を受けている	127 団体	58.0%
少し影響を受けている	75 団体	34.2%
全く影響を受けていない	13 団体	5.9%
他	4 団体	1.8%
計	219 団体	99.9%

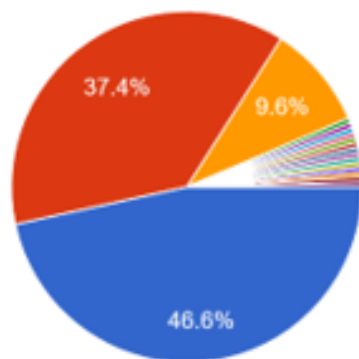
<団体が受けている具体的な影響> ※一部抜粋

- ・活動・イベント等が中止（延期）。
- ・これまでのような対面の会議ができない。
- ・総会・理事会など団体運営のための会議ができない。
- ・課題を抱えて NPO（市民活動団体）のサービスを要している人々（一人暮らし高齢者、介護を要する高齢者、障害者、一人親、ひきこもりの方など）へのケアが出来ない状況にある。
- ・オンラインでの会議スキルを持ちえない団体は今後についての議論が出来ない。
- ・活動・イベントが中止になったことにより、自主事業においては、参加費や売り上げ等の収益がなくなった。
- ・受託事業・補助事業では、契約延期・一時休止・契約解除など当初予定していた資金が見込めなくなった。一方で、会場使用料や広報費の損失がでている。
- ・企業協賛が得られない。受注事業も減り、福祉作業など工賃が支払えない状況にある。
- ・居場所・相談支援のニーズに応えるために継続実施している。
- ・小学校休校による児童受け入れ施設（学童保育等）のスタッフの過重労働等。
- ・利用者、家族の不安。万が一感染者が出た場合の対応策の準備。
- ・通所者が心配している。ほんの少しのことでもデリケートになっている。
- ・授業をしているために利用者間の密接空間と通勤時の不安感情。
- ・難聴者の団体のため通訳者なしで会議がむずかしい。
- ・利用者の安否確認や緊急時の対応がむずかしい。
- ・利用者様の行動が詳細に把握できない。
- ・個別の学習支援ができない。
- ・高齢者が集まる機会を喪失し、介護予防につながらない。
- ・外国人住民や支援者に必要な情報等を届けることがむずかしい。
- ・定期的な活動の開催が不透明で、会の目的が成り立たない。
- ・団体を運営するための必要な会合がもてない。

<受けている影響への対応>

- ・対応のしようがない。
- ・今後の状況を見て会費の一部返金等検討中。
- ・できる限り電話で対応しています。
- ・イベントで頒布開始予定だった会誌は、口コミや、会報での告知、SNS での告知などで対応しているが、反響は芳しくない。
- ・例会は各自自己研鑽、役員会はメール会議、総会は書面総会に切り替えた。
- ・講師やゲストに「開催は不透明だが」と断りを入れて依頼をかけている。
- ・事務作業は引き続きやっているので、スタッフの活動時間を短縮した。
- ・研修会・学習会などのイベントは中止、語りの場合は協力を得て ZOOM 対応。
- ・5 月 10 日まで中止。状況をみて延長も考えている。損失への対応は、繰越金から考えている。
- ・助成金や給付金の利用を検討している。
- ・各除菌、清掃、換気、検温を行っており、また自助を推進する声かけと説明文書の作成。
- ・総会の委任状や書面議決書を、出してもらって実施の予定。
- ・オンライン講座を試す。オンラインショップを宣伝。
- ・ネットでのやり取りに切り換えている。
- ・イベント自粛はするが、Youtube や動画などでの情報提供にきりかえる
- ・三重県への後援申請の取り下げ、協賛団体へのお詫びと状況説明。
- ・SNS や無線機を使った訓練などを進めています。
- ・対応マニュアルの作成。利用に関するアンケート。市町自治体との協議。
- ・何とか仕事を作り、対応している。
- ・フルタイムの正社員は当然のこと、パートの支援員さんたちへも無理を言って、長時間の勤務をお願いしている現状です。
- ・雇用調整助成金、緊急持続化給付金の申請予定。
- ・情報提供依頼の自治会役員・民生委員宅訪問は、資料をポスティングし、後刻電話でフォローするという活動をおこなっている。
- ・学習支援については、感染予防のため「気を付けて欲しいこと」をまとめ、児童・生徒に配布している。
- ・学習会開催の是非については、市の担当部署・教育委員会の意向を適宜確認しながら考えている。
- ・会員でパソコン使用できない方がいるので携帯メールでやりとりしている。
- ・郵便、電話、メール等色々な通信手段を使っている。
- ・スタッフやシルバー委託の出勤回数を減らしている。
- ・心配ないよと話をしている。
- ・助成金申請事業が延期申請など行い、運営固定費を内部留保から支払っている。
- ・在宅での業務とした。
- ・在宅支援の導入（当面 5 / 6 まで）。
- ・特に対応ができていない。利用収入の減少分の補填を市が検討中。
- ・法人として体力がある限り努力をする。職員のやりきるといふ意欲に助けられている。
- ・電話、書面で連絡をとっている
- ・助成金に変更申請を行い処理している。
- ・LINE でのミーティングを実施しています。また、通常の活動が難しいため、ネットでの作品配信や、団体の活動環境をより良いものにするための期間としています。
- ・再開されるのを待つしかない。時間に余裕のある時に資料作りなどして、直ぐ対応できるよう準備している。
- ・自主事業に関しては、ほとんど実施がなくなり、委託事業も利用中止になる中、スタッフの勉強期間・充電期間と考え、参考文献・図書の読書とレポート作成や昨年度まで実施していた事業内容の見直しを行っています。
- ・語学講座：半分はオンライン（teams 使用）講座に急きょ変更して継続。PC 貸し出し対応。
- ・通訳：LINE ビデオ電話などの活用を検討中。
- ・会議：以前からスタッフ会議はオンラインでしていたが、理事会もオンラインに変更。
- ・資金繰り、公庫、銀行融資の申請、セーフティネットの手続き。
- ・事務所の開所時間及び職員の勤務時間の削減。事務所が狭小なので換気の徹底。
- ・委託先の市の担当者と、参加団体への連絡方法、委託金について確認する。
- ・会場は屋外とし、椅子を並べて、少人数で青空会議を実施した（4/3）。

2. 利用者への影響



● かなり影響を受けている
● 少し影響を受けている
● 全く影響を受けていない

かなり影響を受けている	102 団体	46.6%
少し影響を受けている	82 団体	37.4%
全く影響を受けていない	21 団体	9.6%
その他	14 団体	6.4%
計	219 団体	100.0%

＜利用者が受けている具体的な影響＞ ※一部抜粋

- ・ミーティングができないと回復が遅ざかります。
- ・支援が受けられない。
- ・面談による家族相談が利用できない。
- ・勉強する機会の喪失。
- ・コロナウイルスの恐怖から、通所できない。
- ・通所してきても不安からパニックで情緒不安定な方がいる。
- ・利用者自身、マスクが無くなってきている、または無い。
- ・居場所である「語りの場」が開催できなくなった。
- ・日本語を教えてもらえず、学習が継続できず、忘れて行ってしまう。
- ・共働き世帯については経済的負担も大きい。
- ・不要不急の外出を控えている。感染リスクに対し、心身の不調が出ている。マスクの入手困難で不安がより加速している。
- ・学童を利用できなくなり、働き方、家族の負担が増える。
- ・交流の場に参加していただき、子育て世帯の孤立化を防ぐ取り組みをしていたが、場がなくなったので孤立化や虐待発生などの影響が考えられる
- ・親子の居場所、気軽に相談をする場がない。
- ・日本語を使うチャンスが少なくなり、日本語能力検定合格に悪影響を及ぼす。さらには、外国人の就職等にも影響を及ぼす。
- ・作業が減り、売り上げも減る。工賃も減る。イベントもなくなる。楽しみがなくなる。
- ・今まで会員でない親御さんまでもが、ご子息を学童クラブへ通わせたいという希望が多数寄せられています。
- ・人と人との交流ができない。
- ・自宅待機が長引く中で、生活が乱れたり、ストレスをため込んでいる子がいる。気が狂いそうと言っている子もいた。
- ・対面での参加ができない。
- ・就労支援の被支援者には、特段変わりなく接している。ただ、景気の後退が予想される中、さらに就労に苦労することが考えられる。パート・アルバイトからの正社員昇格が延びる被支援者も出るかもしれない。
- ・介助を受ける方も介助をする方も機会が損失。
- ・職員は配置が十分な時は散歩にも出かけたが、今は難しい。家からも出かけられないのでストレスを感じている。
- ・サロンが休業しており、体操ができないので体力が落ちてきている。
- ・サロンが休業しているので、独居高齢者が孤立化しており、認知症が心配。
- ・何か問題があっても解決することが難しくなった。
- ・市民サービスの低下、行事中止による、スタッフ、出演者のキャンセル料などの自費負担。
- ・イベントなどを協賛して頂いている地元企業様の経営は大変厳しいものとなりました。
- ・来ることによって社会とのつながりや仲間たちとの情報交換していたことが失われている。
- ・物品販売がイベント中止や店舗の閉鎖でほとんどできなくなり、障害がある人の仕事が激減したため、収入に影響が出ている。
- ・障害がある人のトレーニング施設が密集防止のため時間が短縮され、トレーニングに支障が出ている。
- ・市からの委託事業（託児所）は利用休止、もう一つの委託事業（子育て支援センター）も利用制限をしており、来館する親子が激減しています。子どもの預け先、親子の居場所が無くなりました
- ・子どもたちの体験の場、居場所としていた機会がなくなりました。
- ・当団体の小学生対象事業も中止し、他団体も事

業を中止しているため、ユースの社会参画体験として昨年度までボランティア活動をしていた中高生も活動の機会を無くしています。

- ・学校は現在休みになっているが、1月2月は予定が中止になった。生徒の授業が滞ったのではと思う。
- ・不登校児童生徒や保護者にとっては、不登校への不安とともに健康面の不安が増大していると感じている。
- ・報酬の半減
- ・介護予防事業・サロンの休止によって、体操をしないため体力が低下する、高齢者同士が交流できないので、認知機能の低下が進む。
- ・直接会って話がしたくてもできない。情報が信頼できるのか確かめられない
- ・休業や解雇、残業なしで収入不安なし、寮を出なければならないなど。今後はリーマンショック並み（以

上？）になると思われます。また来日間もない児童生徒などが 日本語教育も受けられず自宅にこもっています。親が自習のサポートをするのは難しいです。

- ・マスクや消毒を強いられてかなりストレスを感じている。まだどこにも行けないのでストレスが溜まっている。仕事がないので体力を持て余している。
- ・要約筆記者は研鑽の機会減少、難聴者の方は情報の減少。
- ・お年寄りの孤立、情報の錯誤
- ・高齢者同士・高齢者とボランティア会員との交流が大変少なくなっている。
- ・公民館サークル生が閉じこもりがちで、フレイル状態にならないか心配である。

<利用者が受けている影響への団体の対応> ※一部抜粋

- ・家族相談は電話での対応。
- ・利用者さんの手洗い・アルコール消毒の徹底。通所できない方には、電話で対応。
- ・事業所にある使い捨てマスクを2枚ずつ、配布。不安感が強くないように、その都度、対応。
- ・自宅で出来る運動を一緒にしています。
- ・ZOOMでの語りの場の開催。個別のやり取り。
- ・NHKのラジオ講座等を紹介している。または、講座が実施されるようになったら連絡するように伝えている。
- ・相談を行い、場合によってマスクの支給。手作りマスクの制作を行い始めている。
- ・電話やメール・SNSの相談を併用している。
- ・動画の配信。オンライン講座の紹介。ビデオ制作予定。
- ・メールやラインで会議をしている。
- ・なんとか利用者の仕事を確保している。
- ・マスクを購入して活動者に配布をと思ったが入手できない。
- ・感染拡大地域のお客様に野菜ボックスやお手紙をだしてお見舞いをする。
- ・訪問できない時は、電話・メールを使って被支援者の不安を取り除くようにしている。
- ・家族にも連絡を取り、被支援者の様子を尋ねている。
- ・休校中も規則正しい生活を送るようにアドバイスしている。また、休校中に何か一つのことに挑戦してみるように勧めている。
- ・自然を觀賞したり、できる範囲での楽しみをみつけ提供。変化に対し、個々に合わせた伝え方を考える。
- ・現在、弊団体作品を企業様サイトの宣伝用に無償提供させていただくことを検討しています。
- ・ラインなどで、安否確認や励まし合いなどしている。
- ・食糧配布会を実施。
- ・取り組み始めているのが、フェイスブック・インスタ・ツイッ

ター・ブログで、子育て中の親に向けての発信、不安や辛さ・困りごとを出せる場を設け、親たちの声を拾うことです。また、昨年度3月に実施予定でした小学生対象のプログラムも中止にしましたので参加予定の子どもたちには、お便りを出す予定です。尚、小学生に向けては、年度後半に屋外でのプログラムが実施できないか考案中です。

- ・高齢者の方がフレイルの予防が出来る様にDMの送付。
- ・距離を保ちながらの家庭訪問
- ・コロナウイルス感染の危機感を話す機会を持っている。
- ・不登校の親の会とともに保護者支援をしていきたい。
- ・状況を理解いただき丁寧に回答するとともに、臨時の緊急相談会を開催し、必要なサービスの提供ができるよう努めている。
- ・電話、メール、手紙による連絡周知。
- ・メール、ファックス等を利用した伝達。
- ・出来るだけ身近に感じていただける等に電話、手紙などで対応。
- ・コロナ関連の支援（相談・情報提供/感染防止啓発/食糧支援など）を検討中。4月末から徐々に実施。
- ・児童生徒に対してはオンラインで学習のサポートができると思いますが、wifi環境がないなどがネックで、難航しています。当団体の人材も限られているので、思うようにはできないと思います。
- ・マスクや消毒はしないといけないうので無理やりでもさせている。
- ・仕事がないので体操や学習や色塗り本を読んだりパズルをしたりしている。
- ・主催はあくまでも学童保育所であり、方針に従うしかない。
- ・現在は電話相談を休止しているが、限られた電話相・

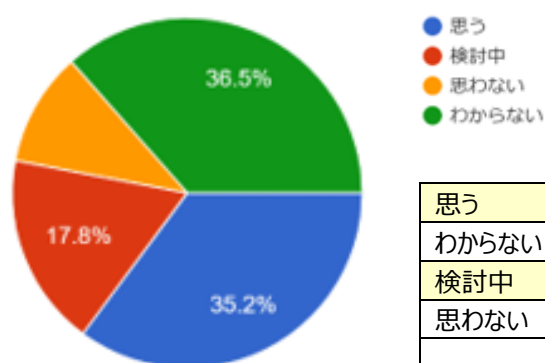
談員の中で、相談時間の短縮も視野に入れながら早急に対応したいと考えている。

- ・お菓子を持って訪問にて玄関先で困りごとに確認実施。役員及び民生委員さんと情報共有。緊急時の体制確保。
- ・今までより遠くまで送迎している。

・体験事業は、手紙などで状況をお知らせしている。広場は相談電話を受けるようにしている。

- ・3月中止分は返金なし、お詫び連絡のみ。4月以降分は返金対応予定。
- ・厚生労働省の啓発チラシを自治会回覧した。

3. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響に対して団体として貢献できること



<具体的な内容> ※一部抜粋

- ・支援の支援ができるかと考えている。
- ・休校になった子どもたちに、個別でピアノや音楽に親しむ機会を提供する、など。
- ・仲間に、この機会をチャンスとしてデジタル力を身に着ける行動をするように HP で呼びかけている。
- ・こう言う時だからこそ、メールや電話、手紙を書く時間が持てる。活動を見直せる。
- ・講座のオンラインでの実施等を検討している。
- ・子どもを預かることで、仕事を持つ親の支援につながっている。
- ・インターネットでの情報発信に取り組んでいる。
- ・ニーズがあれば、児童をはじめ全世代に対し、常時「子ども食堂」の要素がある「あらまきごはん」実施。
- ・世代を超えた居場所の提供。手作りマスクを一緒に作るなどを実施している。
- ・不安・心配の軽減方法の提案
- ・子育て情報オンラインの立ち上げ。
- ・当団体はメンタル面へのサポート。例えば、大人と子どもが安心できるようなメッセージをおくること。
- ・当団体では、不安、イライラなどで緊張の高まっている家庭に安心のメッセージ、スキルを届けることができる。その方法を考慮中。
- ・今回のことを「災害」と捉え、最前線の現場（医療現

- 場）への何らかの支援ができないか検討中。
- ・適切に運動することで免疫力を高め、感染リスクを抑える。
- ・分断された人と人とのつながりをなんとかつなぎたい。
- ・子どもや高齢者へのお弁当やお菓子の配布。地元の農産物の郵送。
- ・観光振興、地域振興、まちづくりをする団体として地域の切実な現状の発信や地域の飲食店のお持ち帰り MAP の作成などできることはあると感じている。ただできるかというところでは人員不足などもあり迅速にはなかなかできない現状である。
- ・材料があれば手作りマスクはできそう。
- ・オンラインで開催出来る企画の検討。
- ・見通せない現状に対する不安への励ましなど
- ・継続的な見守りが必要な独居高齢者へのアプローチや方法の検討中。
- ・ゆとりのある方から必要としている方への、マスクの流通を支援したいと検討中。
- ・注意喚起や対策情報等を作品に盛り込むなど、検討中です。
- ・こんな状況下で社会のために頑張っている分野の仕事の手伝いはできないか。
- ・組織力を生かしての各種啓発。

- ・オンラインをよくわかっていない方が予想以上に多くて驚いた。使い方講座を開催してオンラインのメリットやコストカットの方法を伝授できる。そうすればリモートも増え自粛体制を整えることが可能になる。
- ・医療従事者への出来る範囲の支援。
- ・保護者に対しての精神的なサポート。
- ・他団体と連携して余剰マスク等の受け取り窓口になる。
- ・国から受け取る 10 万円を利用した生活困窮者支援のしくみづくり。
- ・食糧支援。専門の窓口につなぐ。
- ・材料があればマスクや防護服を作成できる。
- ・不安や困りごとの声を拾うことへの取り組みを始めています。
- ・団体内へ LINE での自粛の過ごし方の提案。
- ・高齢者等の方の安否確認やフレイル予防対策。
- ・すでに予防策などの印刷物を配布済み。
- ・生活困窮者への支援など。アベノマスクの寄付。10 万円の寄付。
- ・それぞれ専門分野があると思いますが、専門性に基づいて困っている人がどのように自身の問題を解決できるか示していくことができるのではないかと思います。またさまざまな場面で不安になっている人たちに寄り添うことで安心してもらうこともできるのではないのでしょうか。非難ではなく支えあいの気持ちが高くなるような取り組みに期待したいです。
- ・関係者の活動を共有、お知らせできる仕組みを考えていきたい。
- ・クラウドファンディングを参考に、寄付や基金を募り小事業者や弱い立場の人の緊急対応を行う。
- ・子どもの虐待防止、ストレスの発散など。
- ・発信力を生かして、集まらずにネット環境で支援金や資金を募る方法を知らせて欲しい。
- ・感染予防をして、利用者の方の通所（居場所）を確保する。
- ・日常生活用品の買物代行、相談、啓発、食糧支援、オンラインサポートなど。
- ・外国人への対応を手伝う。
- ・ネットなどでの生涯学習の情報発信など。
- ・民生及び自治会長を通して市側との情報共有を図り、現状と緊急時の体制等を確立する。
- ・緊急事態相談窓口の確立。
- ・他地域の情報共有。
- ・現段階ではまだ検討中である 新型コロナウイルス感染症関連の情報を良く勉強して、市民として相応しい対応を率先して 実行して、良い影響を与えてゆく。
- ・バス車内での感染防止。座席の間隔を広げる。
- ・新型コロナウイルス感染症関連の情報を良く勉強して、市民にとって相応しい対応を見つけて、率先して実行して影響を与えてゆく。
- ・行政との協力関係
- ・地域の団体がどんな支援を望んでいるか調査し、できることから取り組んでいく。当会が作成してネット上で公開している地域散策地図を改めてまとめて公開し、家族等で地域を散歩し、理解するのに利用してもらえればと思う。
- ・指導者と協力してストレッチ動画等を配信し、運動不足解消とステイホームを呼びかける。
- ・ボランティアによる手作り布マスクを作成し、民生委員の見守り対象者に配付した。

4. 行政や中間支援組織への必要なサポートなどの要望

- ・助成金の拡大とその用途の幅を広げてほしい。
- ・今回の事象で、コンサートや演奏活動が、自分主義の悪いものである、という印象を持った方が多い。集団で行うことは、今は避けるべきだが、行政がそのような打ち出しをするときは、文化活動は地域にとって必要なものである、ということを忘れずに言及してほしい。
- ・今後もイベント中止、延期が続くと思うが、決断は可能な限り迅速にお願いしたい。海辺で砂の城をいくつも作っている感覚だ。どうせ中止になるかもしれないイベントの計画を立てるのは、モチベーションの維持が難しい。
- ・3密にならない活動（例えば輪転機を一人で作業して印刷する）など、施設や備品の借用をお願いしたい。
- ・強制換気設備の導入や抗菌ウイルス除去に効果のあるイオン、ミスト発生装置の設置等を具体的に進めて頂きたい。
- ・市民の命と健康を最優先にしてほしい。
- ・テレワークシステム構築、テレビ会議システム構築の費用を援助してもらいたい。
- ・平均工賃の算定について、このような状況で利用者さんが1日しか通所できていない等、通所日数の少ない方が増える可能性があるので、通所日数の少ない利用者は、平均工賃の算定人数より除外させてもらいたい。このままでは平均工賃が下がってしまう可能性が高いです。
- ・住んでいる地域の詳しい情報が欲しい。
- ・オンライン講座や会議システムについての説明会をweb上で開催してほしいです。
- ・営利を目的としない団体ではあるが、職員の給与等の運営費について今年度は予算通りにはいかないと感じている。更なる補助金の追加等をぜひ検討していただきたい。
- ・マスクの提供をお願いしたい。可能な限り、感染拡大前の状況を維持していきたいため、現状よりPCR検査の敷居を緩和してほしい。
- ・金銭的に困っている方への財政支援。
- ・状況が好転したらできるだけ速やかに、施設等を使用できる環境を整えられるよう準備していった、速やかに対応していただきたい
- ・適切な情報開示 経済的支援の迅速化
- ・毎日の昼食をまとめて居酒屋さんなどからテイクアウトする。
- ・消毒、特にマスクの在庫がなくなり、大変です。
- ・正義感のある方々が団体を結成し、この国難を乗り越えるために自分たちがなんとか役立てないかと無理に活動される団体もあるかと思っています。例、手づくりマスクを数人で集まって作業する など。SNS で作業の様子や活動を発信されていますがかなりリスクを感じます。家族以外で数人でも集まらないように注意喚起をしていただきたいです。遠隔でもできるはずですが。頑張ってお下さる方たちだからこそ、守りたい思いでいっぱいです。
- ・活動の内容に「子育て支援」も入れてください。子ども、若者支援というか子どもも支援していますがどちらかというと子育て中の保護者や家族の支援をしています。
- ・それぞれの団体がさまざまな情報を発信しているので、それらを分野毎にまとめられないか。
- ・どの家庭（おとな・こども）にも、限なく安心のための情報が届くよう、サポートを望みます。
- ・資金提供に関する迅速な意思決定
- ・障害福祉サービス事業所は、緊急事態宣言下でも開所が原則です。感染者が出た場合の利用者への対応はもとより、対応する職員をどう守るかも大きな課題。閉所の場合は、利用者に代替措置を自分たちでみつけるようにと厚労省は通知しているが、そんなものがあつたら教えてほしい。千葉や埼玉ですでに入所施設でクラスターが発生し、職員は入院できても利用者は受け入れる病院もなく施設内で治療を受けるなんてことにはなっていない。
- ・私どもは、休業しているわけではありませんが、逆に過重労働をさせているので、超過勤務手当がほしい。
- ・誰でもオンラインを使って活動を行えるようなサポートが欲しい。技術的、費用的に。
- ・固定費や新しい運営のための資金が必要なのに、要請は度々あっても町県独自の支援策はない。県のコロナ危機対応補助金についてはNPOは除外されており抗議して交渉中。ぜひ取り上げてほしい。新しい枠で協力金などの制度を実施して早急に支給してほしい。国の制度も複雑で申請は困難を極め、支給も遅くその間に活動が休止に追い込まれていく。
- ・連絡先が電話のみでは難聴者には対応できないため電話以外の連絡先も明記してほしい。
- ・本来得られるであった入館料など損失額のある程度の保障。
- ・施設内で利用者さんをお預かりするにあたり、どのような対処、対応をされているか、モデルケースなどや、一日の流れを知りたいです。
- ・補助金制度や助成金などの告知。とにかく情報をどこかに集約して欲しい。選別は各団体でやればいいと思う
- ・多岐にわたる NPO 活動への行政支援・こんな時だからこそ住民感覚をもつ NPO 活動が重要。
- ・（行政に対して）マスクや消毒液を必要としている団

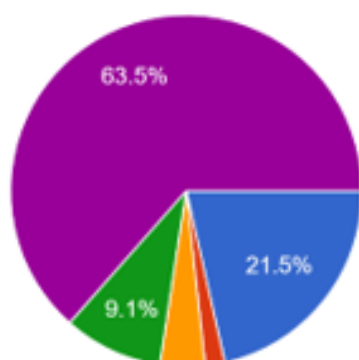
体への支援。

- ・ネットワークを使用しなくてはならないので、その費用やインフラの支援をお願いしたい。利用方法の講習など互いにやりたい。
- ・必要なマスク（使い捨て）を配布してほしい。品不足のため、作中に作る計画をしており、今よりもっと大変になる。中途半端な使えないマスクをもらっても利用者の誰も使えない。ただでさえいつもと違うことで神経質になっているので 大きくてゆったりしたものでないと障害者の方はつけません。
- ・利用者に外出しないようにお願いしていますが、家族と出かけています。出すのならもっと強くわかりやすいメッセージにしてください。小さい子供を持つ職員が感染を怖がっています。安心して働けるようにしてください。
- ・対応方法のガイドラインの明確化。
- ・数人で対応を協議するための場所の提供。
- ・イベント自粛による収入減の補償。
- ・イベント中止による補償
- ・各団体活動の情報発信の手助けや、各団体に出来るような現在情勢において有益な活動の提案があると、より多くの団体が力を発揮できると思います。
- ・補助金の削減をしないでほしい。
- ・外出自粛により、ストレスがたまる傾向にあると思います。各市民活動団体からのノウハウで「お家でできること」集や電話相談等を、貴センター等のホームページで公開してもらってはどうか。
- ・オンライン導入を急いでいただきたい。オンラインへ柔軟に変更可能な場所から随時「提案」として呼びかけ、学校や行政もお手本となっていいただきたい。特に学校へ。子どもたちが不安がっている。
- ・何が必要か、どんな手助けがいるか、町として公表してほしい。
- ・行政：明確なガイドラインの設定（あいまいであると都合良く拡大解釈をする）
- ・中間組織：減額・返金の依頼があった場合の有効な対処方法、事例紹介。
- ・市民活動団体にはマスクや物資の配給や情報発信等して欲しい
- ・禁止・中止連絡ばかりは閉塞感が増すので、打開策の取り組み情報が少しでもあると参考になります。
- ・NPO 等の状況の的確な把握とそれへの対応

- ・行政に対しては、生活が困窮している家庭への支援を早急に行ってもらいたい。特に一人親家庭は非正規社員で働いている親も多く、経済が悪化していく中で解雇されることもあるのではと推測します。家計が成り立っていかなくなり一家心中も出てくるのではと危惧します。
- ・狭い部屋が多くて、大きな部屋がない。3密が起きやすい部屋ばかりで、困っている。
- ・三重県は一部の他府県で実施が始まった簡易検査について検討されているのか教えてほしい。
- ・公的機関、教育委員会の拡大防止施策の共有（ベクトル合わせ）。
- ・公的機関、教育委員会の今後の方針についてのリアルタイムな情報共有。
- ・具体的な指示を出してほしい。
- ・自分たちの身の安全を守りながら、私たちの支援やサポートを必要としている人がいる以上、工夫を凝らしていることは継続していきたいと考えます。行政には、一律的な対応ではなく、状況に応じた判断をお願いしたいと思います。
- ・コロナ後の活動再開時に、資金面などのサポートを賜りたい。
- ・産官学民それぞれが役割分担をして平常時ではない緊急時対応を行う。
- ・ネット環境で販売できて地域のメルカリのような仕組みが作れないか。このままでは、自然消滅してしまうのでは。
- ・NPO が活動しようとするに財政面での援助、継続的な支援。
- ・コロナ収束後の柔軟かつ強力な活動サポート。
- ・行政には相談会などでの連携（すでに話し合い中）。中間支援にはネット会議の情報とか（zoomはどうか？）、コロナ関連で使える補助金情報があれば。行政の枠内で委託とかないことはないけど、縛りがあって時間もかかって難しい。
- ・行事中止による補助金の減額、返還はやめてほしい。
- ・最新情報をタイムリーに発信してもらいたい。その情報をホームページに掲載していますということではなく、メールなどでアップデート情報を流してもらえると見逃さない。
- ・安全な環境を確保するために、マスクやアルコール消毒など必要なものがまずほしい。

5. 2019 年度の行政等の委託料・助成金・補助金について

<中止・延期の場合の支払い状況>



- 委託料、助成金等は減額されなかった。
- 委託料、助成金等のすべての経費が支払われなかった（全額返金になった）
- 委託料、助成金の一部の経費が支払われた（一部返金になった）
- 交渉・協議中
- 上記に該当なし

減額されなかった	47 団体	21.5%
全ての経費が支払われなかった （全部返金になった）	4 団体	1.8%
一部の経費が支払われた （一部返金になった）	9 団体	4.1%
交渉・協議中	20 団体	9.1%
上記に該当なし	139 団体	63.5%
	219 団体	100.0%

<中止・延期の場合の支払い状況>

- ・印刷費やチラシデザイン作成委託費が発生し、代表が立て替えている。
- ・市からの委託事業であり、施設使用料等の減など、実績での減額のみで人件費は減額なし。
- ・一部、理事（職員）が、自己資金で補填せざるを得ない費用として、感染予防関連の消耗品費が発生している。
- ・会場のキャンセルの費用はかからないのでよいが、準備のための費用がかかり、赤字になった。
- ・委託ではなく、1 回ごとの講師料についての支払いはなし。企業は 3～5 月については、20%の支払いがある。6 月以降は契約の見合わせ。
- ・就労支援は、市社会福祉協議会の協力金としていただいている。活動実績に応じて支給されるが、上限が決められている。上限を超える実績があったので減額返金はなかった。
- ・学習支援は市からの受託事業で、支援実績に応じて支払われる。昨年度の実績分は支給された。ただ、参加を見合わせた児童・生徒がいたため、その分はなかったため、2018 年度よりも委託料収入は少なかった。
- ・会で負担。
- ・今後の協議事項になることと思います。
- ・準備の段階でかかった費用（人件費含む）を算出して支払っていただいた。
- ・中止による費用負担は出ていない。
- ・委託料の中で、補填できるように要請している。ただし緊急を要しない案件については、発注の段階でセーブ

- ・料理教室は 4 回予定していたうちの 1 回が中止になった。中止になるまでの人件費、チラシ印刷費用、事務用品費は、市に請求し支給された。会場は特例としてキャンセル料は発生しなかった。ただ人件費については、ボランティア手当なので、三重県の最低賃金とまではいかない。
- ・ガソリン代は、それぞれ個人が負担した。指定管理料は減額されていないが、もともとの金額設定が低く、入館料収入がなければ運営が成り立たず、3 月分の給与・賃金は 4 月に引き落とされる 3 月分の光熱水費、委託料など現在は会が立て替える形で負担している。
- ・経費の支出も抑えられたので、大きな負担はない。
- ・現在折衝中。
- ・繰越金で対応している。
- ・昨年度分の支払いは全て受けた。
- ・すべて返金してもらったので、負担はなかった。
- ・年度を通じての活動実績があり、2～3 月の活動のみが行政の指導により自粛、中止になった旨を説明し、報告を上げたので現状減額の話は出てきていない。

- している。イベントによっては、補填されている。現在、調整しているものも補填してもらう様に調整中。
- ・減額による人件費等は、法人が負担した。
- ・計画の中の事業について減額依頼があった。
- ・2019 年度の行事は実施できたので、減額されることはなかった。行政からの助成金はないが財団からの助成を受ける予定であった。今後どういう取り扱いになる

のかこれから協議する予定。今年の年末の公演予定であったが早期に中止を決めたので人件費や印刷費用の発生はないが、ホールのキャンセル料が発生するので市に対して免除を申請する予定。

- ・印刷したチラシの印刷費用は当会で負担する。イベント準備の延期決定までの人件費は個人負担してい

る。

- ・チラシ印刷・会場キャンセル料等は発生していません。今の時点で明確には言えないが、終息に1年を有した場合、会員への全額返金・2020年度のパンフレット作成費用・会場キャンセル費等、全てをクラブが負担する事となる。

6. 総括

<アンケート結果のまとめ>

設問 1. 団体への影響

92.2%の団体は影響を受けている（かなり 58.0%、少し 34.2%）

（１）影響の内容

- ・活動・イベントの中止・延期、総会・理事会の中止
- ・サービス提供制限（要介護者・高齢者への訪問制限、各種居場所の閉鎖、病院通訳等）
- ・利用者・利用者家族・スタッフの精神的ストレス、スタッフの過重労働
- ・委託事業中止のため収入減、下請け業務の激減、団体の存続及び活動の継続の不安 など

（２）それへの対応

- ・事業の日時・会場の変更・延期・内容変更
- ・メール会議や書面総会への切り替え、オンライン活用
- ・スタッフの活動時間の短縮・雇用調整 ・助成金や給付金の利用検討 など

設問 2. 団体の利用者への影響

84.0%の団体の利用者が影響を受けている（かなり 46.6%、少し 37.4%）

（１）影響の内容

- ・直接、社会サービスを提供している利用者への影響は深刻
要介護者とその家族、一人暮らし高齢者、子どもたち、一人親や共働きなどの子育て世帯、障がい者、外国人、生活困窮者などの心身のストレスへのケアやサービスが不十分 ※
- ・作業所や施設等で働いているスタッフの雇用環境の悪化 ・マスクや消毒薬の不足 など

（２）それへの対応

- ・精神的ストレスを抱えている方への電話による対応や、不安の解消につながる活動
自宅のできる運動や学習の提案、ZOOM やラインなどオンラインによる情報提供、手紙や FAX を利用しての励まし合いやつながりの確認など、団体の専門性やネットワークを活用して実施
- ・マスクや食料の配布 など

設問 3. 団体が貢献できること

- ・高齢者の安否確認、子育て情報オンラインの立ち上げ、子どもなどが音楽に親しむ場の提供、メンタル面のサポート、外国人のサポート、生活困窮者への支援、ネットで資金を募る、マスクの流通 など

設問 4. 行政・中間支援組織等に対する要望等

- ・マスクや消毒液など緊急に必要なものの提供
- ・不安を抱えている人へのサービスの再開支援
- ・多様な使途に対応できる助成金の提供、経済支援の迅速化
- ・テレワークシステムやテレビ会議システムの構築にかかる費用の支援
- ・多様な情報をまとめた情報発信と相談窓口の設置、中間支援組織による多様な分野におけるきめ細かな相談 など

設問 5. 事業の中止・延期による支払状況（行政等の委託料・助成金・補助金等）

2019 年度の行政等の委託料・助成金・補助金において、中止・延期による支払状況については、委託者や事業進捗等の条件によって様々であった。

<アンケート結果を受けて>

緊急アンケートであったにもかかわらず、約 1/3 の市民活動団体・NPO から、詳細な記述を含む回答があり、各団体及びその利用者が、切実で深刻な状況にあることが把握できた。

新型コロナウイルスの感染症に伴う影響は、スタッフと利用者の安全確保のための活動の中断が、市民活動団体・NPO 特有の、その対象とする「人」、特に、高齢者、子ども、障がい者、外国人など、脆弱な環境にある人々とのきめ細かなつながりの分断や孤立をもたらし、これへの対応が急務となっている。また、団体それ自体へも大きな経済的・運営的な影響を及ぼしている。

一方、「人と人との関係性」による活動を展開している市民活動団体・NPO であるからこそ、新型コロナウイルス感染拡大がもたらしているこの現状に、どのように対応することができるのか、何ができるのか、を模索していることも十分に把握され、三重県の市民活動団体・NPO の新しいポテンシャルもうかがえる。

このような結果を受けて、以下のことを検討、実施したい。

各地域の中間支援組織や行政等と連携しながら、早急に取り組むべきことを検討し、推進していきたい。

第 1 に、市民活動団体・NPO が活動の対象としている、脆弱な環境にある利用者等へのサービスの再開と継続に向けた支援である。

物資（マスク、消毒液、食料など）の提供（仲介）のほか、高齢者、子ども、障がい者、外国人など、脆弱な環境にある人々に対する活動に必要な資金確保の支援、オンライン会議等のサポート、相談窓口の設置などである。

第 2 に、市民活動団体・NPO 自身の存続に向けた支援である。

上記 1 と同様に不可欠な物資、資金確保、オンライン会議等への支援や相談窓口の設置に加えて、政府や自治体による様々な施策について、特に資金面に関する情報を中心に、市民活動団体・NPO にとって関連の深い情報をわかりやすく整理・提供し、その申請のサポートも行う。

今回のアンケートをもとに、各地の中間支援組織、市町と相談・検討をし、利用者や団体が抱える課題が少しでも緩和・解消され、市民活動団体・NPO だからこそ提供できるサービスが継続的に実施できるよう役割を果たす所存である。